

第78期 報告書

平成24年4月1日から平成25年3月31日まで



新光電気工業株式会社

SHINKO



株主の皆様には、平素より当社事業運営にひとかたならぬご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、第78期報告書をお届けするにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

スマートフォンをはじめとする多機能携帯情報端末市場の拡大や、新興国を中心とするパソコン・デジタル家電等の需要拡大、カーエレクトロニクス分野のさらなる発展なども背景として、半導体産業は、今後、中長期的な成長の持続が見込まれます。

一方で、高集積化・高速化等の技術革新、絶えず変化する市場ニーズに対し、低コストかつ柔軟に対応し得る開発・生産体制を構築することを要するなど、世界規模での競争が、さらに一段と激化することが予想されます。

当社グループは、このような産業にあって、変化に即応できる企業体質の構築を目的として、徹底した現場主義によって「ものづくり」の革新をはかるとともに、お客様のニーズに即した新製品の開発・量産化を進め、競争力の向上ならびに収益の確保に注力してまいります。

さらに、当社グループの企業理念・指針「SHINKO Way」の実践を通じ、市場において必要とされる企業であることはもとより、社会において必要とされる企業であり続けるべく事業を展開してまいります。

■ 平成24年度の事業概況

生産の落ち込み・投資の抑制基調の継続 不透明感を払拭できない状況のまま推移

当期の経済環境は、世界経済の減速ならびに円高・ドル安の影響等を受け輸出が減少し、製造業において生産の落ち込みや投資の抑制基調が継続いたしました。第4四半期にかけて経済対策、金融政策への期待感等により、為替相場が円安に転じ、株価が上昇するなど、景気が好転する兆しが見受けられました。海外では、米国経済は緩やかな回復傾向を示す一方で、欧州金融不安の長期化などを背景として、新興国の経済成長が鈍化するなど、先行き不透明感を払拭できない状況のまま推移しました。

半導体業界につきましては、スマートフォン、タブレット端末向けの需要は増加したものの、パソコンの需要低迷やエレクトロニクス機器全般の市場が伸び悩むなど、引き続き厳しい状況が継続しました。

パソコン市場低迷等による在庫調整の影響 経費削減、投資圧縮等の緊急対策を実行

このような環境下において、当社グループにおきましても、パソコンや薄型テレビ市場の低迷等による在庫調整の影響を大きく受ける中、積極的な受注活動を展開するとともに、主力のフリップチップタイプパッケージについて新製品の量産体制整備等を推進いたしました。その結果、当期の連結売上高は、1,272億41百万円（対前期比1.1%増）となりました。

た。収益面につきましては、市場環境が悪化する状況下において収益確保をはかるべく、経費削減、投資圧縮等の緊急対策を実行するとともに、生産革新活動を基軸とする合理化・効率化の取り組みを強化いたしました。また、第4四半期において売上が回復傾向を示したことに加え、為替相場が円安基調で推移したことなどにより、連結ベースの経常利益は50億49百万円（前期は17億58百万円の経常損失）、当期純利益は28億74百万円（前期は22億42百万円の当期純損失）を計上することができました。

単独決算につきましては、売上高1,208億67百万円（対前期比0.4%増）、経常利益50億8百万円（前期は18億95百万円の経常損失）、当期純利益29億43百万円（前期は21億65百万円の当期純損失）を計上いたしました。なお、当期の配当につきましては、期末配当金を10円とし、中間配当金の10円とあわせて年間20円とさせていただきます。

■ 今後の見通し

スマートフォンやタブレット端末等の市場拡大 企業間競争の激化・製品価格の低下圧力

今後の半導体業界におきましては、スマートフォンやタブレット端末等の市場拡大およびカーエレクトロニクス化の進展などによる需要の増加が期待されるものの、タブレット端末等の台頭に伴うパソコン市場の停滞に加え、企業間競争の激化等を背景として製品価格の低下圧力がさらに強まるなど、今後も厳しい環境が続くものと想定されます。

市場ニーズに即した生産体制整備・積極的な拡販 変化に即応できる強靱な企業体質を構築

当社グループといたしましては、主力のフリップチップタイプパッケージの次世代製品対応等のため、高丘工場（長野県中野市）に増設した新工場を順次稼働させるなど、市場ニーズに即した生産体制整備ならびに積極的な拡販活動を展開することにより、一層の事業基盤強化をはかるとともに、マーケティング機能、新商品開発機能の充実に努め、当社の最先端の半導体実装技術をもとに、今後、成長が見込まれる市場において新商品の事業化に注力してまいります。また、競争力の源泉となる「ものづくり」の製造現場をさらに強化すべく、生産革新活動による生産性向上への取り組みを進化・発展させ、市場・環境の変化に即応できる強靱な企業体質を構築することによって、「限りなき発展」を果たしてまいり所存であります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成25年6月



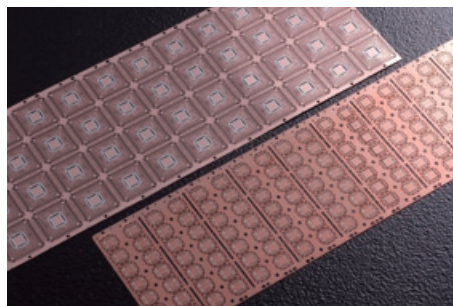
代表取締役社長

倉石文夫

部門別の状況

■ ICリードフレーム部門

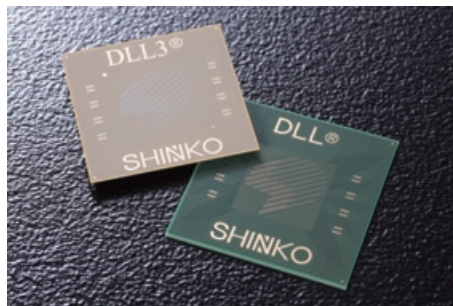
プレスリードフレームは、デジタル家電市場の不振等による影響を受けましたが、LOC（リード・オン・チップ）タイプリードフレームは、メモリー向けに堅調に推移し、また、エッチングリードフレームは、QFN（クワッド・フラット・ノンリード）タイプがスマートフォンやタブレット端末向けに需要を拡大するなど、売上が増加しました。この結果、当部門の売上高は239億32百万円（対前期比3.5%増）となりました。



プレスリードフレームをはじめとする汎用性・信頼性の高いリードフレーム

■ ICパッケージ部門

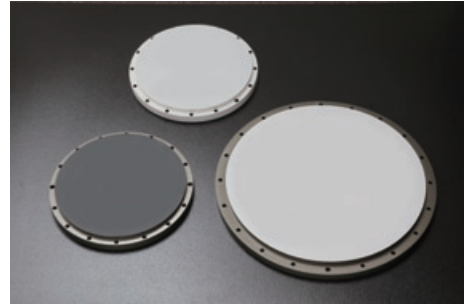
フリップチップタイプパッケージは、パソコン市場低迷による在庫調整の影響を受けたものの、サーバー向け需要の拡大や新製品の受注獲得に注力したことなどにより売上が増加しました。MPU向けのヒートスプレッダーは、期前半は受注が底堅く推移しましたが、期央以降の在庫調整により売上が減少しました。アセンブリ事業は、カメラモジュール組立の大幅な需要減少などにより厳しい環境が継続し、プラスチックBGA（ボール・グリッド・アレイ）基板も低調に推移しました。この結果、当部門の売上高は868億60百万円（対前期比2.4%減）となりました。



高性能IC向けに用途が拡大するフリップチップタイプパッケージ

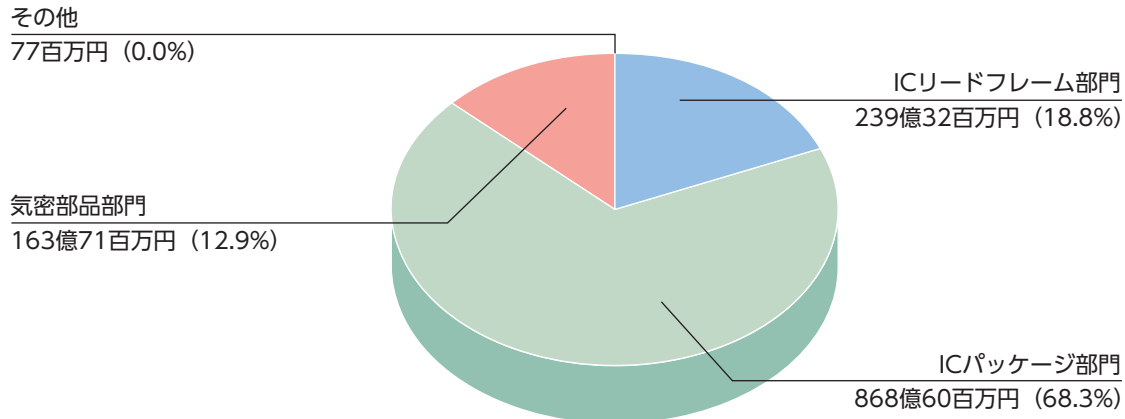
■ 気密部品部門

光素子用ガラス端子は、デジタル家電市場不振の影響を受け、売上が伸び悩みましたが、センサー用ガラス端子は、自動車向けに需要が拡大し、前期比増収となりました。セラミック静電チャックは、半導体製造装置向けに受注が増加しました。この結果、当部門の売上高は163億71百万円（対前期比19.1%増）となりました。



半導体製造装置においてシリコンウエハーを固定するために用いられるセラミック静電チャック

部門別売上高構成

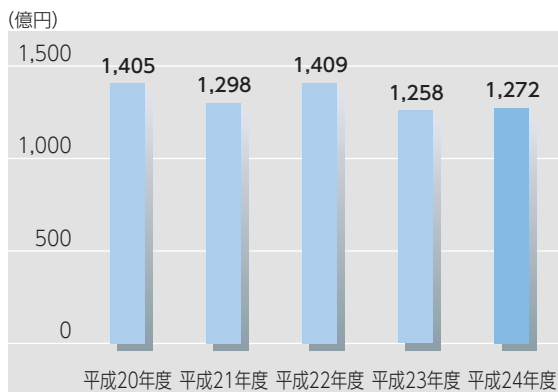


※ () 内の数字は構成比率を表わしております。

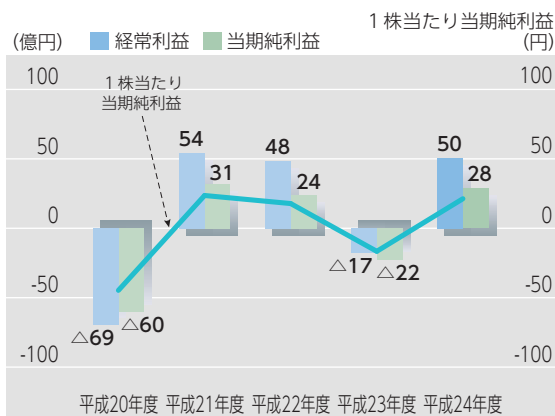
業績の推移

〔連結〕

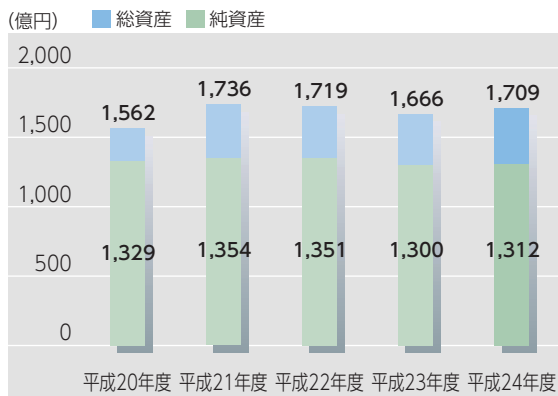
■ 売上高



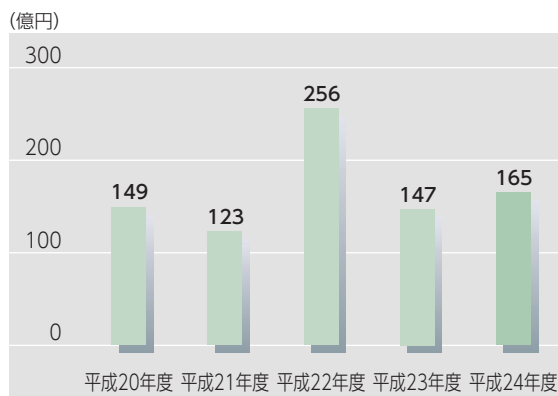
■ 経常利益 / 当期純利益



■ 総資産 / 純資産

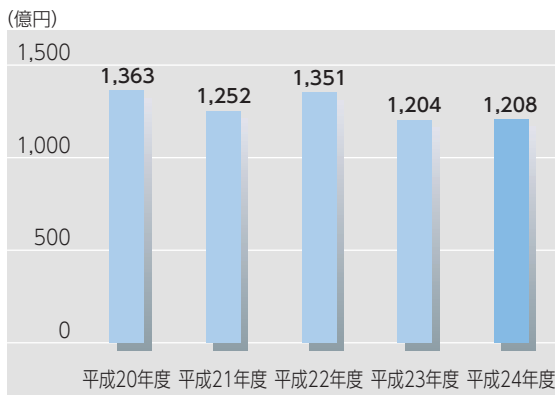


■ 設備投資

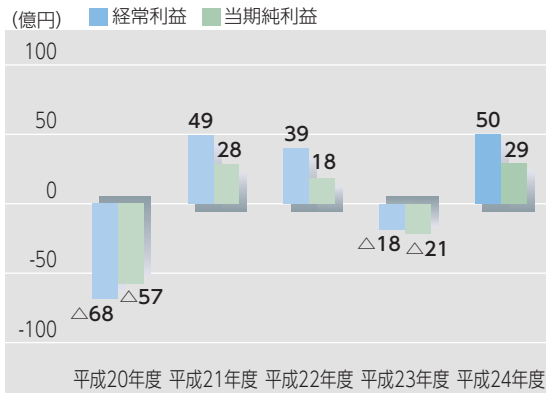


〔単独〕

■ 売上高



■ 経常利益/当期純利益



■ 営業成績および財産の状況の推移

区分	年度	平成20年度 〔第74期〕	平成21年度 〔第75期〕	平成22年度 〔第76期〕	平成23年度 〔第77期〕	平成24年度 〔第78期(当期)〕
〔連結〕	売上高 (百万円)	140,510	129,836	140,923	125,825	127,241
	経常利益 (百万円)	△ 6,961	5,432	4,828	△ 1,758	5,049
	当期純利益 (百万円)	△ 6,042	3,188	2,404	△ 2,242	2,874
	1株当たり当期純利益	△ 44円73銭	23円60銭	17円80銭	△ 16円60銭	21円28銭
	総資産 (百万円)	156,266	173,690	171,921	166,686	170,966
	純資産 (百万円)	132,959	135,420	135,198	130,048	131,206
	1株当たり純資産	984円22銭	1,002円45銭	1,000円80銭	962円68銭	971円25銭
	設備投資 (百万円)	14,923	12,340	25,683	14,771	16,596
	研究開発費 (百万円)	4,651	4,019	4,081	4,544	4,231

〔単独〕

売上高 (百万円)	136,336	125,232	135,161	120,438	120,867
経常利益 (百万円)	△ 6,850	4,915	3,984	△ 1,895	5,008
当期純利益 (百万円)	△ 5,782	2,877	1,846	△ 2,165	2,943

決算概要 (連結)

■ 連結貸借対照表

平成25年3月31日現在

(単位：百万円)

科目	当期	前期	科目	当期	前期
資産の部	170,966	166,686	負債の部	39,760	36,637
流動資産	98,933	99,645	流動負債	35,043	31,952
現金及び預金	11,467	15,835	買掛金	18,486	20,320
受取手形及び売掛金	35,751	37,926	短期借入金	600	600
有価証券	970	426	その他	15,957	11,032
商品及び製品	2,354	1,377	固定負債	4,716	4,685
仕掛品	3,677	3,666	純資産の部	131,206	130,048
原材料及び貯蔵品	1,384	1,222	株主資本	133,280	133,107
預け金	38,500	35,000	資本金	24,223	24,223
その他	4,837	4,217	資本剰余金	24,129	24,129
貸倒引当金	△ 9	△ 25	利益剰余金	85,020	84,847
固定資産	72,033	67,041	自己株式	△ 92	△ 92
有形固定資産	66,124	60,023	その他の包括利益累計額	△ 2,074	△ 3,058
無形固定資産	915	896	その他有価証券評価差額金	27	26
投資その他の資産	4,994	6,120	繰延ヘッジ損益	—	6
資産合計	170,966	166,686	為替換算調整勘定	△ 2,101	△ 3,091
			負債純資産合計	170,966	166,686

■ 連結損益計算書

平成24年4月1日～平成25年3月31日

(単位：百万円)

科目	当期	前期
売上高	127,241	125,825
売上原価	111,594	117,966
売上総利益	15,646	7,859
販売費及び一般管理費	12,633	11,538
営業利益	3,012	△ 3,678
営業外収益	2,055	1,947
営業外費用	18	27
経常利益	5,049	△ 1,758
特別損失	428	467
税金等調整前当期純利益	4,621	△ 2,225
法人税、住民税及び事業税	395	256
法人税等調整額	1,351	△ 239
当期純利益	2,874	△ 2,242

■ 連結キャッシュ・フロー計算書

平成24年4月1日～平成25年3月31日

(単位：百万円)

科目	当期	前期
営業活動によるキャッシュ・フロー	19,279	14,664
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 17,785	△ 24,169
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,736	△ 2,745
現金及び現金同等物に係る換算差額	959	△ 78
現金及び現金同等物の増減額	△ 283	△ 12,329
現金及び現金同等物の期首残高	50,496	62,825
現金及び現金同等物の期末残高	50,213	50,496

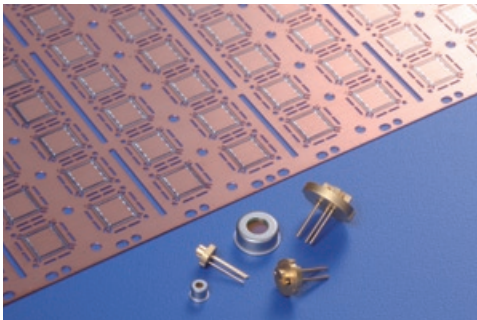
■ 連結株主資本等変動計算書

平成24年4月1日～平成25年3月31日

(単位：百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額				純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	その他の 包括利益 累計額合計	
平成24年4月1日残高	24,223	24,129	84,847	△ 92	133,107	26	6	△ 3,091	△ 3,058	130,048
連結会計年度中の変動額										
剰余金の配当			△ 2,701		△ 2,701					△ 2,701
当期純利益			2,874		2,874					2,874
自己株式の取得				△ 0	△ 0					△ 0
自己株式の処分		△ 0		0	0					0
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)						0	△ 6	990	984	984
連結会計年度中の変動額合計	-	△ 0	172	△ 0	172	0	△ 6	990	984	1,157
平成25年3月31日残高	24,223	24,129	85,020	△ 92	133,280	27	-	△ 2,101	△ 2,074	131,206

さまざまな製品に使用されるガラス端子とリードフレーム



QFNタイプリードフレーム（上）とガラス端子（下）

1950年代に製造を開始したガラス端子は、トランジスタ向けに需要を広げ、その後、IC、センサー、光素子等のさまざまな半導体素子を搭載する部品として、エレクトロニクス製品の進化、変遷とともに多様な製品に使用され続けています。ガラス端子に次ぎ、半世紀近い歴史を持つリードフレームもまた、もっとも汎用的なICパッケージとして、市場拡大が続くスマートフォンやタブレット端末向けにも需要が増加しています。

精密な金属加工技術をはじめ、当社創業以来の技術の系譜に連なるこれらの製品は、たゆまない「ものづくり」の現場の改善と、技術開発の積み重ねによって、お客様より高いご信頼をいただき、今も最先端のエレクトロニクス製品に使用されています。

高丘工場に新工場が竣工

昨年7月、高丘工場（長野県中野市）内に新工場が竣工し、今後、順次操業を開始する予定です。

当社主力製品であるフリップチップタイプパッケージの生産体制強化、次世代製品対応を目的として建設された新工場は、サーバー、モバイル端末向けなどにフリップチップタイプパッケージの需要拡大が期待される中、今後、それに応じて増築可能な構造となっています。

新工場では、設備から発生する排熱を冬季の空調加温に利用し、また、屋外の冷気を用いて冷水をつくるフリークーリング機構の高効率化を進めるなど、自然エネルギーを積極的に利用するほか、省エネルギー性能の高いユーティリティ設備やLED照明を導入するなど、環境負荷の低減をはかっています。



高丘工場新工場棟

会社の概要

Corporate Outline

(平成25年3月31日現在)

- 商号 新光電気工業株式会社
- 設立年月日 昭和21年9月12日
- 本社 長野県長野市小島町80番地
電話 (026) 283-1000 [代表]
- 主な事業内容 リードフレーム、プラスチック・ラミネート・パッケージ、ガラス端子などの製造・販売、ICアセンブリ
- 従業員数 4,223名 (連結4,980名)
- 工場等 更北、若穂、高丘、新井、京ヶ瀬、新光開発センター、栗田総合センター
- 営業所等 東京、大阪、仙台、長野、名古屋、大分、福岡、フランクフルト、マニラ
- 子会社 新光パーツ株式会社
新光テクノサーブ株式会社
SHINKO ELECTRONICS (MALAYSIA) SDN. BHD.
KOREA SHINKO MICROELECTRONICS CO., LTD.
SHINKO ELECTRIC INDUSTRIES (WUXI) CO., LTD.
SHINKO ELECTRIC AMERICA, INC.
KOREA SHINKO TRADING CO., LTD.
TAIWAN SHINKO ELECTRONICS CO., LTD.
SHANGHAI SHINKO TRADING LTD.
SHINKO ELECTRONICS (SINGAPORE) PTE. LTD.

取締役および監査役

(平成25年6月27日現在)

代表取締役会長	黒岩 護
取締役副会長	藤本 明
代表取締役社長	倉石 文夫
取締役 常務執行役員	浅野 義博
取締役 常務執行役員	清水 満晴
取締役 上席執行役員	依田 稔久
取締役 上席執行役員	長谷部 浩
常勤監査役	小川 喜彦
常勤監査役	酒井 雄一
監査役	北澤 光二

株式の状況

Shareholders' Data

(平成25年3月31日現在)

- 発行可能株式総数 540,000,000株
- 発行済株式の総数 135,171,942株
- 資本金 24,223,020,480円
- 株主数 14,804名
- 大株主

株主名	所有株式数 (千株)	出資比率 (%)
富士通株式会社	67,587	50.00
ザ・バンク・オブ・ニューヨーク・ジャスディック・トリーティン・アカウント	4,803	3.55
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	4,694	3.47
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	3,023	2.24
ゴールドマン・サックス・インターナショナル	2,102	1.56
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口9)	2,050	1.52
株式会社八十二銀行	1,836	1.36
朝日生命保険相互会社	1,239	0.92
ステート・ストリート・バンク・アンド・トラスト・クライアント・オムニバス・アカウント・オーエムゼロツウ	1,089	0.81
新光電気工業株式会社従業員持株会	1,041	0.77

執行役員

(平成25年6月27日現在)

常務執行役員	今井 邦彦
上席執行役員	井口 和治
上席執行役員	三井 精造
上席執行役員	荻原 俊彦
上席執行役員	清野 貴博
上席執行役員	菊地 貴人
執行役員	小林 純一
執行役員	平林 利康
執行役員	高柳 秀則
執行役員	南沢 克夫
執行役員	大日方 政史
執行役員	小平 正司
執行役員	伊藤 明彦
執行役員	反町 東夫
執行役員	倉嶋 進

株式事務のご案内

■株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関

(連絡先)

〒100-8212
東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社
〒137-8081
東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-232-7111 (通話料無料)

■事業年度

4月1日から翌年3月31日まで

■基準日

定時株主総会関係
配当金受領株主確定日

3月31日
3月31日および中間配当金の支払いを行う
ときは9月30日

■公告方法

電子公告
当社は、公告を下記ホームページに掲載して
おります。

<http://www.shinko.co.jp/ir/kk/>

ただし、事故その他やむを得ない事由によっ
て電子公告による公告をすることができない
場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

(ご注意)

1. 株主様の住所変更、配当金の振込みのご指定、買取請求その他の各種
お手続きにつきましては、口座を開設されている口座管理機関（証券
会社等）にお問い合わせください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、
三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記の連
絡先にお問い合わせください。三菱UFJ信託銀行全国各支店におい
てもお取り扱いいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払
いいたします。



新光電気工業株式会社

〒381-2287 長野県長野市小島町 80 番地
電話(026)283-1000 [代表] FAX(026)284-8861
<http://www.shinko.co.jp>



見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。



地球環境に配慮した植物油
インキを使用しています